

ラーニング・サポーター ♪ 12月のつぶやき -JWU ラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています!

<12月のつぶやき♪INDEX>

p.1 風を受けるエリマキトカゲ @T.K.(相関文化論専攻博士課程後期3年) 12月11日 First tweet!

つぶやき1♪

風を受けるエリマキトカゲ

はじめまして。12月から新しくラーニング・サポーターになりました、相関文化論専攻博士課程後期3年のT.K.と申します。今回は風をテーマにお話してみたいと思います。

突然ですが、「あなたの風邪はどこから?」と問われたら、皆様はどう答えますか?私の場合は、喉からです。冷たい風を首に受けたまま過ごして

いると、季節問わず具合が悪くなってしまいます。今年の冬もまた、エリマキトカゲと化して日々を過ごしています。

「風邪」の語源を調べたところ、元々は中国の言葉でした。中国の風水思想では、風は気を動かし散らすものであり、目に見えない風の邪気が身体に入り込むことで、私たちは悪い状態になってしまうそうです。平安時代(10世紀)に編纂された日本最古の医学書『医心方』には、風は万病の元である(=「風者百病之長也」という中国からの説が引用されています。

見えない風を表現することは難しいですが、万葉集の時代から、人々はどうにか言葉で風を表現しようと努めてきました。絵画の面では、葛飾北斎の富嶽三十六景「駿州江尻」が見事です。草木のざわめきや飛ばされていく紙を描くことで、見事に風を表現しています。雪や花びら、色づいた葉など、何かが舞い散る様子は、季節を運んできてくれているかのようでもあり、私たちの五感に訴えるものもあります。

元は「みやび」と読まれていた「風流」という言葉は、美しい趣向を指すようになり、後に人々がきらびやかな衣装で群舞する様子や、お祭りの中の華やかな部分を指すようになりました。お祭りの熱気は風に流れてすぐ消えてしまいますが、その一瞬を末永く続けていけるように、全国各地で継承に向けた様々な取り組みが行われています。

生きていると悪い風が吹くこともあります、そんな中でも心の中に灯った火を少しでも大きくしたり、道に迷った舟を少しでも良い方へ導いたりできるような、誰かにとっての追い風になれたら嬉しいです。これから宜しくお願ひいたします。

